



2022年度 地域リハビリテーション連携構築推進事業

In 秦野



障害福祉グループホームにおけるリハビリテーションの可能性について

第1部 グループホームをとりまく状況と多職種連携について

2023年1月23日(月) 13:00~15:00 秦野市本町公民館



第1部では、秦野市役所障害福祉課より市内のグループホームをとりまく状況をお話していただき、秦野市内・秦野市以外のグループホームの方よりグループホーム設立までの経緯や、実際にグループホームにリハビリテーション専門職を導入している事例を紹介していただきました。

当日は、市内グループホーム関係者のほか、他市の関連職種の方など、43名の方にご参加いただきました。参加者の方々からはグループホーム同士での連携の必要性や多職種での介入についてのご意見が多数寄せられました。

参加者の声

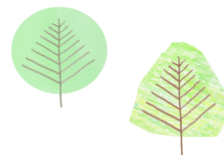
*横の連携がとても大切だと感じています。実際に道を隔てたところにそれぞれのグループホームがありながら、主たる障害が異なることで、ほとんどお互いの存在を共有できていないホームもありました。支援の質においても、横の連携で高め合う必要性を感じました。

*「グループホームの支援者(職員)でご本人/ご家族が一体になってチームワークでゴールに向かっていく。これこそがグループホームの最大のメリットである」とのお話しに大変感動いたしました。リハビリテーションに関する現場のお話しは大変貴重な情報でした。改めてリハビリテーションの意義を再確認する機会となりました。



第2部 リハビリテーション連携と利用計画への実際

2023年2月10日(金) 13:00~15:00 秦野市本町公民館



第2部は、当支援センターの理学療法士から知的障害者の高齢化に伴う身体機能の低下について、地域のグループホームに介入している作業療法士から実際にどのような支援をしているかのお話をいただきました。また、地域の生活相談の方から障害福祉の利用計画に関することや、県庁の共生推進本部の担当者をお招きして、障害福祉サービスを受ける利用者の当事者目線の支援に関わるお話しをしていただきました。

参加者の声

*グループホーム利用者の高齢化に伴う機能低下などの問題を認識はしていたがノウハウもなくタイムリーな話題を提供していただきました。障害福祉サービスはリハビリテーションという視点が薄いですが、機能維持などについてできることがあるとわかりました。

*今回の研修会をきっかけとして、障害福祉におけるリハビリの有用性や提供サービスとの親和性が評価され、障害福祉サービスにおいてもリハビリが活用されやすくなることを期待したいです。

今回の研修会では、障害福祉グループホームが、地域内での連携について『ネットワーク構築と多職種でのリハビリテーション支援のきっかけを掴む』ことを目的に開催しました。

障害福祉分野のグループホームとリハビリテーションというテーマでの開催は、地域内外でグループホーム関係者・他職種の方々へ開催趣旨の御理解をいただくことや研修会開催の告知の方法など、むずかしい面も多々ありました。市役所障害福祉課や関係機関のご協力により、たくさんの方にご参加いただけたことに感謝申し上げます。地域内でのテーマの共有・認識のきっかけとなっただけであれば幸いです。(小川 淳)



12. 10 (土) 高次脳機能障がいセミナー 実務編

高次脳機能障がいは、脳損傷後に、注意障がい・記憶障がい・遂行機能障がい・社会的行動障がい等により、生活のしづらさが生じます。症状の改善のため、本人の状態や生活状況に応じた支援・対応が重要となります。入院から社会参加に至るまでのアプローチのヒントを、各専門職の方から講義を通して学びました。



受講生の声 神奈川リハは構造化や各科の共通認識があり、いいなと思った。復習と新たな知識をありがとうございました

神奈川リハ病院 (左から)

医師 青木 重陽、PT 有馬 一伸、心理士 山岸 すみ子
職業指導員 進藤 育美、SW 瀧澤 学、(OT 高橋 大樹)

1. 21 (土) オンライン 高次脳機能障がいセミナー 就労支援編

高次脳機能障がいの方の就労支援へのプロセスや取り組みを講義にて学び事例検討会を通して、支援に必要なアセスメントや実践的な就労支援機関との連携・情報共有などのポイントを学びました。

受講生の声 入院中から退院後の生活面の支援に重きをおいている事例検討をする機会があまりなかったので、大変参考になりました。

鎌倉市二千円雇用センター 田原 充氏

神奈川リハ病院 SW 瀧澤 学、永井 喜子、職業指導員 小林 國明

2. 4 (土) 車いすシーティング

車いすと利用者との適合を評価するために、座位姿勢の確認・車いすと身体の適合に必要な基礎知識、クッションの調整など、講義と体験を交えて学びました。

受講生の声 車いすに座っている方がどのような姿勢が楽か(クッションの座圧・背もたれの背張り・フットサポートの距離やシート幅)あまり考えたことがなかったが、自分で体験してみることで重要性がよくわかりました。



神奈川リハ病院 PT 森田 智之、リハエンジニア 松田 健太 地域リハ支援センター PT 小泉 千秋

2. 7 (火) 地域生活を支える支援とは ～コミュニケーション機器を導入するために～

機器体験や事例検討を通して、コミュニケーション機器を導入するために必要なスキル(身体機能評価・機器を知る)を学びました。

受講生の声 機器の導入・見極めが必要なこと、本人の意向・家族のことも考えていく…重要なことを学びました。

ソフィアメディ訪問看護ステーション本厚木 OT 大沼 涼氏
地域リハ支援センター SW 小川 淳、OT 清水 里美



2022 年度の研修会はすべて予定通りに開催することができました。

感染対策などご協力ありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします！



2023.1.15 テーマ 「高次脳機能障害支援法制定に向けて」

高次脳機能障害支援法が制定された場合、「高次脳機能障害の定義」「受傷発症から社会参加まで、小児から大人まで、多機関が連携したシームレスな支援」「高次脳機能障害支援センターの設置」「大都市特例等」を定めた理念法・基本法となり、具体的な支援施策は法の施行後に検討することとなります。

それらを踏まえて、5人の演者がそれぞれの立場から高次脳機能障害支援の現状と高次脳機能障害支援法が制定されることでの効果等を講演いただきました。

1. 国立障害者リハビリテーションセンター顧問の深津先生からは、現在国立リハで取り組んでいる研修のパッケージ化/支援困難度を評価する指標開発/現在の診断基準の見直しについてご説明いただきました。
2. 慈恵医科大学第三病院リハビリテーション科の渡邊先生は医療の立場から、診療を行う中で小児/成人/家族支援への課題についてご提言いただきました。
3. NPO 法人高次脳機能障害支援笑い太鼓の加藤様は支援者の立場より、事例を交えて多機関が連携しながら高次脳機能障害がある方を支援する中で、障害者手帳や障害年金の診断書が作成されず、退院後の目標設定が不明確な中、介護保険や障害福祉サービスとの連携した支援体制も不十分なまま地域生活を余儀なくされている現状と課題についてお話しいただきました。
4. NPO 法人日本高次脳機能障害友の会理事長の片岡様は家族の立場から、脳損傷後の生きづらさに焦点を当てて、高次脳機能障害者に対する理解を有した社会の構築を訴えられました。
5. ハイリハキッズの中村様は、小児高次脳機能障害の特性やハイリハキッズ等での活動を踏まえて大人の後回しにしない支援体制づくりを述べていただきました。

現在、高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業を所管している部署は、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神/障害保健課であり、ここまで障害福祉サービスを中心としつつ、就労支援を含めた社会参加支援を推進するために大きな役割を果たしていただいています。

今後は、教育/医療/社会からの理解と支援等を含めた省庁の垣根を越えた取り組みを行うためには、法制化なくしてはあり得ないことを今回の大会で再確認しました。

(瀧澤 学)

4月～1月末 専門相談実績

昨年、一昨年より相談件数は増加していますが、疾患・地域によって偏りが見受けられます。日常生活の中で気になることがございましたら、ご相談ください。

☎ 046-249-2602

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷 (除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・ 加齢等)	不明	合計
県央	8(2)	4	8(1)	2(2)			12(4)	5(1)	4(2)	1	44(12)
湘南東部		3(1)			12(2)	1	8				24(3)
湘南西部	2	7(1)	4(1)		1	9(2)	6(1)	4	3		36(5)
県西	4(1)	2	3		1	4(1)			1		15(2)
横須賀・三浦	3		2					1	3		9
合計	17(3)	16(2)	17(2)	2(2)	14(2)	14(3)	26(5)	10(1)	11(2)	1	128(22)

	障害者更生 相談所	居宅介護 支援事業所	市町村	地域包括 支援事業所	本人・家族	障害者相談 支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護 事業所	保健福祉 事務所	高齢者施設	訪問介護 事業所	教育機関	その他	合計
県央		4(1)	1		7	4	13(5)		2		10(5)	2(1)	1		44(12)
湘南東部					1	5	13(3)	1	3				1		24(3)
湘南西部		3(1)			7	4(1)	13(3)		5				3	1	36(5)
県西		1	1		1	4(1)		1	5(1)	1				1	15(2)
横須賀・三浦				2	4	1	2								9
合計		8(2)	2	2	20	18(2)	41(11)	2	15(1)	1	10(5)	2(1)	5	2	128(22)

()の数字は訪問の件数

2022 年度

神奈川県在宅医療推進協議会リハビリテーション部会



2023 年 2 月 7 日（火）Web にて開催されました！



新型コロナウイルス感染症の影響により開催が見送られており、3年ぶりの開催です！

リハビリテーション部会の部会長に神奈川県医師会理事の小松幹一郎先生、副会長に神奈川県リハビリテーション支援センター所長の村井政夫が互選され、承認されました。

議題は、協議事項として、令和3年5月に国が「地域リハビリテーション推進のための指針」の改定を行ったことに伴う「地域リハビリテーションに関する実態把握のための調査の実施について」でしたが、県庁からの説明に対して、各団体の委員から多くのご意見が出ていました。詳細は、県庁のホームページに議事録が報告されると思いますので、ぜひご覧ください。

参加された各団体の代表の各委員は、とても積極的に地域活動について述べられていました。しかし、神奈川県各市町村・各町内会に、どのようなリハビリテーションサービスがあり、そこにどのような人が集まり、どのような悩みや課題があるのかなど、多面的な実態はわかりません。

まず、知ることから始めよう！ということです。しかし、調査して満足とならないよう調査から見える課題やニーズに対し、具体的な行動計画を示せるように次年度も頑張っていきます。

（磯部 貴光）



今年度を振り返って…

今年度も残すところあと僅かとなりました。

新型コロナウイルス感染症も未だ収束には至らず、ウクライナ情勢も不透明のままです。

そのような不安定な状況が続く中、地域リハビリテーション支援センター主催の研修会におきましては、参加していただいた皆様のご理解・ご協力のもと、すべての研修を予定していた形式で開催することができました。感染対策にご協力いただき、大きなトラブルが起きることなく終えることができたことにあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

昨今は、電力をはじめとするエネルギーの価格高騰と新型コロナウイルス感染症の5類移行など、まだまだ取り組むべき課題は残されています。3月に入るとマスクの着用指針や国や都道府県の感染症対策要件の変更など目白押しです。

また新しい生活様式を身につけなければいけませんが、次の前進に向けて当センターも一生懸命に取り組んでまいりますので、来年度もご協力の程よろしくお願い申し上げます。

神奈川県リハビリテーション支援センター 所長 村井 政夫

編集後記

2月4日は立春でした。春分は昼と夜の長さがほぼ同じ日、冬至は昼の時間が一番短い日です。冬至と春分の中間が立春です。春の始まりで、1年の始まりとされる日です。さて今年の春はいかかなものでしょうか。（Y・I）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601

